

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300375		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホーム サンシャインあいおい		
所在地	群馬県桐生市相生町4丁目33-4		
自己評価作成日	R3.9.22	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・昼食や、おやつを入所者様と一緒に作り、一人一人役割や張り合いを持って頂いている。 ・毎日の散歩を日課として、季節の移り変わりや、ご近所の畑の作物を見る事でコミュニケーションを行ったり、体内リズムや下肢筋力をつけ転倒予防を行っている。 ・コロナ禍で、買い物や外食が行えていないが、毎月の暦の行事を大切に行っている。 ・毎月ご家族にホームでの様子を写真に撮り送っている。 ・訪問看護が主治医や薬剤師、歯科衛生士と連携を取り、健康管理を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所理念は、職員の年代や経験を問わず利用者の対応で困った時に、どうケアをしたら良いのかを具体的にイメージがしやすく理解しやすい言葉を使って表現している。また、事業所は地域の協力があつての施設運営と考え、4つの理念の頭文字を地域名の「あいおい」としている。コロナ禍ではあるが運営推進会議のメンバーに状況報告を兼ねて、訪問や電話での意見交換を継続して、議事録に記載している。利用者一人ひとりの思いの把握は、利用者の言動を表面だけではなく、人生背景を振り返りながら、時間をかけて行っている。また、否定しないで受け容れる姿勢を大事にしている。この他、利用者ができることを継続してもらいたいと考えて、定期的に調理等行う機会を設け、食べることの楽しみとみんなど暮らし「あいおい」での生活を楽しむことにもつながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に自分達で理念を考えて、玄関・事務所に掲示し、カンファレンスの時に皆で話し合っ共有していけるように努めている。	日々のケアで立ち止まった時や、新入職員にも分かりやすく伝えるように、地域名である「あ・い・お・い」で始まる理念を作成した。理念は、職員が自分のケアを振り返るときにも役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、夏祭りや地域交流が困難になっているが、散歩の時等に積極的に挨拶し、交流を深めている。また、育成会の古紙回収に年2回協力している。	地域の方の理解と協力があって自分たちの事業所が運営できると考え、毎年新年の挨拶を欠かさず行っている。その積み重ねと利用者が毎日近所を散歩して地域の方と面識を深めて、いただいたタオルを雑巾作りに活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースとしてホールを設置し、包括支援センターや近隣の人、町会長や民生委員へ自由に使用してもらえるよう声掛けをしていたが、コロナの為特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2ヶ月に1度文書にてひやりハットや事故報告を行い、行事・外部評価・防災訓練等の議題を設け、意見を頂いて、活かしている。	現在、運営推進会議の開催はできていないが、民生委員や町の役員が事業所に訪問した時や電話で、事業所の近況を報告し、各委員から意見を伺っている。利用者家族の会議の参加については、入居時に確認をして協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為、運営推進会議を書面にて報告しており、指導を頂いている。	利用者の怪我やヒヤリハット、離設などのトラブルがあった時には、報告をしている。また、地域包括支援センターから入居相談があり空きがない場合でも、法人に連絡して法人本部が調整等の対応を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、日勤帯が安全を確認しながら開錠するよう努めている。3ヶ月に1回ミーティングにて1人1人の利用者様のケアの見直しや代替を話し合い、夜間のみセンサーを置いている利用者様もいる。	やむを得ずベッド柵等を使用しなければならぬ時は家族と相談し、職員間で検討しながら対応している。日常的に職員の言葉がけで気になることはその場で管理者が、自分の身になって考えて行うことを基本に伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について防止していく事、どんな事が虐待かという事を、年2回身体拘束と一緒に勉強会を開催して学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要としている利用者様がいないが、今後勉強会を実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはマニュアルに沿って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来設時や電話にて意見を伺える様に努めている。直接お話し頂いた意見や要望は、上司に報告・相談し、反映出来るよう努めている。	面会時や受診の付き添い時に家族と対話をして、意見を聞いている。利用者が納得しなかったことは家族から働きかけてもらい、夜間のポータブルトイレ利用が可能になった事例がある。また、家族との外出は、家族の負担を考慮して支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人に労働組合があり、年に2回経労協議会を開催し、職員の代表と法人の代表とで意見交換する機会を設けている。	管理者は、職員のアイデアをできるだけ実現できるよう、また働きやすい職場になるように、職員の意見を聴くよう努めている。家族面会を屋外で実施することや、玄関に正月の生け花を飾ることも職員アイデアで実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与の時期には人事考課制度を活用している。 毎年、職員全員が昨年の目標の達成度・今年の目標・異動希望等を記入するチャレンジシートを提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各施設で研修委員を置き、職員アンケートをもとに必要な研修を年間で計画して毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人主催のQC大会が年に1回あり、発表の場を設けていたが、コロナ禍の為、報告書で行いサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されてから、職員全員で観察を行い、本人とコミュニケーションを取りながら困り事や不安な事を把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、契約時にご本人やご家族より、これまでの生活歴を伺い、困り事や不安について把握出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を提供できるよう、当施設のサービスだけでなく、他施設や他のサービスの提案・紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、利用者様の生活の中で、掃除・お茶入れ・食器拭き等の出来る事はして頂き、共同生活の中でやりがいのある毎日を送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に今までのご本人の暮らし方や、ご家族やご本人に出来る事を聞き取りながら、共に支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの関係を続けていけるよう、ご本人への面会・他者への面会・美容室等を受け入れていたが、コロナ禍の為、現在面会制限を設けており、ガラス越しや天気の良い日は室外でマスク着用にて面会を行っている。	地域の名所への外出時には、「昔ここを歩いた」などの利用者から昔を懐かしむ言葉が聞かれた。コロナ禍で外出制限がある中、馴染みある場所を探して、外出の機会を作っている。また、今まで行ってきた雑巾縫い等できる家事が続けられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や、お手伝い、レクリエーション等、利用者様の関わりや支えが出来るよう、職員が間に入り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合は、面会とご家族との連絡で状況を把握して今後のフォローを行っていたが、コロナ禍の為、現在は電話にて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に散歩やお手伝い等をしながらコミュニケーションを取り、思いを汲み取り、職員で共有している。	利用者との会話で、利用者が喜んだこと、笑顔が見られたこと、利用者の好きなことが分かった時には申し送りノートに記録して、職員間で共有している。また、気持ちを表出できない方には、時間をかけて理由を考えながら、根気強く取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時や面会時に、ご本人やご家族に今までどんな暮らしで、どんなサービスを利用していたかを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で記録を取り、ご本人やご家族から聞き取りを行いながら、今出来る事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にカンファレンスを行い、日々の申し送りの中で、スタッフ同士で意見を出し合い、介護計画を作成している。	ケアマネジャーが日常のケアに入り、利用者の様子や変化を把握してモニタリングを実施し、計画作成に活かしている。また、職員からの聞き取りも反映している。全職員が、計画書を確認しながらケアを行い、日々の実践状況を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やカンファレンス、申し送り等で情報を共有し、担当職員がモニタリングを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況により、キーパーソンが変わったり、変化したニーズに対応出来るよう、職員同士で情報を共有して、買い物や自宅へ帰る等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご兄弟、近所のご友人、介護保険外のサービスや地域資源を把握するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医に往診をお願いしたり、必要時に受診介助を行っている。	利用者、家族の意向を尊重して、主治医や病院との関係が継続できるよう支援している。また、他院への受診は事業所で付き添ったり病院までの送迎を支援をして、なるべく家族の負担にならないよう配慮をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、看護師の訪問時に個々の状態を伝えるようにしている。変化がある際は、24時間随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に担当看護師やご家族に細かい申し送りを行い、入院中は相談員から情報を頂くよう連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時位にDNARの説明を行い、書類に署名して頂いている。市の医師会からも共通の書類があり、定期的に記入を頂いている。	重度化については、利用者の体調不良等に職員が適切な対応ができるよう、緊急時の対応方法を定期的に家族と確認をしている。看取りについては、事業所の体制や職員の経験を考慮して実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救急救命の講習会や緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行っている。運営推進会議で災害対策を相談したり、実際に車で移動し避難する訓練も行っている。	事業所は災害時の避難場所になっており、自家発電や備蓄を備えている。避難訓練や災害時は、敷地内の小規模多機能型居宅介護事業所と避難活動を行う体制を取っていることで、職員の安心感につながっている。	地域の現状に合わせた協力体制について、特に夜間想定時の災害対策を改めて検討することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格や利用者様同士の関係性を配慮しながら、座席や声掛けの対応を行っている。	利用者の意見や要望は、日頃から話を聞き入れる姿勢で大事にしている。利用者は年上なので名字での呼称を行っている。また、トイレへの声かけは他利用者に気づかれなように行い、一方本人が動いた時にはそつと付き添う対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常どの場面でも、やりたいか、やりたくないか、何がしたいのか、と選択して頂き、本人の思いを理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが崩れないよう注意しつつ、本人のペースや体調を見ながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人のこだわりを尊重し、身だしなみやお化粧品等を行えるよう、かかりつけの美容院等に送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かな音楽をかけ、ゆったりした中で食事が出来るよう環境を整えている。行事等では利用者様の希望を反映させられるよう意見を聞いている。 衛生に配慮し、片付けを一緒に行なっている。	落ち着いた雰囲気ですぐに食事が出来るよう利用者同士の関係に配慮した座席配置を行い、テレビを消してBGMを流している。月1回「手作りの日」での昼食は、一緒に買い物に行き、自分の分は自分で作っている。そのため、いつもより食が進む方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量の記録や、毎月体重測定を行い、本人の健康状態を把握している。水分は、好きな時にお茶を飲めるように、ポットにお茶を入れてフロアーに置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は歯科受診をし、毎食後口腔ケアを出来るようセッティング、声掛けや介助を行っている。 月に1度、歯科衛生士の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が無いように、1人1人の行動によるトイレサインやトイレのタイミングをスタッフ同士で把握し、ケアしている。	誰もが他人に世話をされるのが嫌ではないかと考え、できることは利用者が行い、職員は見守りながら必要な介助をしている。また、自然な排便につながるように、散歩や日光浴を取り入れ実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に排便日を記入して、食事量をもとに便秘にならないよう水分摂取や緩下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したくない時は無理をしないで、時間や日をずらしたり職員を変えたりして、個別に対応している。	入浴は利用者の意向を大事にし、無理強いをしないよう実施している。季節によっては、ゆず湯やしょうぶ湯等が楽しめる工夫をしている。また、あえて入浴をしない日をつくり、気分転換の外出の機会を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の馴染みの寝具を使って頂き、室温に注意して、こまめに様子を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師の指示や相談のもと、服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一つ一つやって頂いた事にはお礼を言い、張り合いが持てるように支援している。料理が得意な人や洋裁が得意な方達には、出来る範囲でお願いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出たい方には、希望に沿って出掛けられるよう見守り、付添い支援し、外出支援もご家族と協力しながら行っていたが、コロナ禍の為、現在はドライブに出掛けている。	できるだけ全員で外出する機会を作ろうと考え、身近な場所へドライブをしている。行先は、季節の花が咲く場所を利用者に提案し、人混みを避けた時期や場所に考慮して、利用者と一緒に決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご家族と相談しながら、小銭を管理している利用者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、電話や手紙のやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい室温に調整し、時間で換気をしながら、季節感のある飾りや植物等を設置している。	季節の花を活けたり、玄関前には利用者の写真を掲示したりして、利用者が心地よくみんなで過ごせるような雰囲気作りを工夫している。ホールの照明は暖色で、明る過ぎることなく落ち着いた色合いにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自由に過ごせるよう、玄関等に椅子を置いている。 フロアも食事以外は好きな所に座っておしゃべりやレクリエーションを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように、本人の使っていた家具や寝具等を説明して持って来て頂いている。	居室の入り口のドアにはそれぞれの利用者が出した飾りや名札があり、自身の部屋が分かるように工夫されている。家族の入室ができない現在は、担当職員と本人と一緒に部屋の整理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりがあり、段差の無いフロアで、トイレや居室のドアは全て引戸で、出入りしやすくなっている。		